

平成 30 年度 技術教育支援センター職員所感

氏名	所感
高橋 一英	巻頭言参照
長谷川 亮	<p>9月6日の地震後のブラックアウトでは、北海道電力に就職した卒業生の話や、学生と施設見学で伺った J-POWER の職員の方のお話をお聞きしましたが、大変なご苦労があったとのこと。1年生授業で電気の大切さの講義がありますが、学生も身に染みたようでした。実践的技術者の育成に関わる1人として、大切な仕事に多くの学生が必要とされるよう、授業支援をおこなっていきたくて思いました。</p>
岩渕 祐一	<p>定年退職を迎えて、気持ち的に大きな区切りができました。それと、短時間勤務の再雇用となり、この所為か何かは判りませんが、見える景色に少し違和感のようなものを感じています。</p> <p>今後の職務の中心は技術継承と思われ、新人も含めてお互いの都合に合わせて進めているところです。</p>
藤巻 孝之	<p>今年度はセンター内で何年振りかの席替えがあり、書類や荷物の整理に四苦八苦ししました。なので今後は苦手ではありますが、机と実習工場の「断捨離」と整理整頓ができるようになりたいです。</p> <p>個人的には北海道は終了したので、こっそりと進めている青森県の各駅制覇を出来たら良いなと思います。(残り約30%)</p>
鳴海 敏治	<p>今年度は教育システムの更新作業に始まり、胆振東部地震によって学内ネットワークシステムがダメージを受けるなど例年になく多忙な年となり、ネットワークや教育システムが学校教育の中では、絶対的に必要なインフラだとの思いを今まで以上に痛感させられた1年となりました。</p> <p>これからも、大きなトラブルなく業務をこなしていければと思います。</p>
松井 春美	<p>今年度は機会に恵まれ、様々な研修会に参加することができました。研修会に参加することで知見を広げることができ、何よりも他機関の技術職員の方と交流することができたことが大きな収穫であったと感じています。</p> <p>実際にお話を伺うことで得られる情報は、大変貴重で参考になります。来年度はなかなか出張に行くことは難しいとは思いますが、授業がない期間などうまく時間調整ができれば積極的に参加したいです。もちろん研修会等で得た知識は、授業支援等に還元することを怠らないようにするつもりです。</p>
阿部 努	<p>今年度は、頭の切り換えが必要な年でした。</p> <p>実習での担当が変わり、旋盤加工から溶接・板金・鋳造へ。</p> <p>不慣れなことばかり、しかし、新鮮さもありました。</p> <p>慣れないながらも、また一年間前向きに頑張ろうと思います。</p>
寺島 靖仁	<p>今年は、出張で数年ぶりに東京に行く機会(2回も)がありました。ホテルに宿泊をしたのですが、その雰囲気がガラリと変わっておりました。例えば、朝食のバイキングを用意してくださっている方々が、片言の日本語ですがしっかりとおもてなししていること。人手不足という我が国の課題ということもありますが、それよりも遠く離れた異国の地で働くという情熱を感じてなりません。日々生きている中で、自分はどのくらい情熱を傾けて物事に当たっているのかと、ダラダラしている時間はないと自分に喝を入れていきたいです。</p>

石田 豊	<p>平成 30 年度は当センターの組織および内部業務担当が替わったため、緊張感のある年になりました。新しく担当することとなった「奨励研究担当」では活動を開始する時期が遅くなってしまい、反省しています。次年度は余裕をもって活動開始し、技術職員の奨励研究採択率を上げることが目標です。</p> <p>また、近年は実習工場に対する加工依頼が変わってきています。特に CAD/CAM を使用するような加工は、ほぼ 3D プリンタでの造形に置き換わり、MC で長時間自動運転することはなくなりました。時代の流れを実感しています。</p>
樋口 剛康	<p>2016 年に改正された JISB0401, 0402 で用語、記載方法が変わり、教科書でもそろそろ適用されそうです。寸法公差を基準寸法と同じサイズで記載するという改正もさることながら、「基準寸法」、「寸法公差」と当たり前のように入っていた「寸法」という言葉が消えていくのは衝撃的でした。</p> <p>先日、製図の技能検定に合格し、作図については一区切りついたと思ったところでしたが、円滑に学生の授業支援を行うには、まだまだ精進が必要そうです。</p>
蛸子 翼	<p>平成 30 年度は通常業務以外に研究活動にも多く取り組むことができ、充実した年度でありました。2 度の学会発表をさせていただく貴重な機会に恵まれ、当初は緊張しっぱなしで何を言ったのか覚えていなかったような発表も、少しずつではありますが慣れることができているように感じます。これらの経験を糧とし、来年度もより技術教育に勤しんでいければと思います。あとはプライベートの充実さえ図れれば言うことなしなのですが・・・。</p>
高田 将一	<p style="text-align: center;">退職のあいさつ参照</p>
千葉 裕弥	<p>今年度は生産システム工学科の実験もすべて 2 年目を迎え、新規に準備するものが減り、改善が増加した 1 年間となった。特に実験における資料の提供方法から提示方法の試行は大きな時間を費やした。Web 配布や動画による提供、スマートフォンと連携し QR コードによる資料提示、グループウェアの活用など様々なことを試したがいずれも成果はいまいち。科目により合った形があると思うので来年度も引き続き試行錯誤して行きたい。</p>
木村 慧	<p>入職 2 年目を迎え、やれることも増えてきた気がします。今年度は、卒業研究や部活動などの部品加工に多くかかわり、技能検定の課題にはないような加工にもチャレンジできたことで、学生に指導しながら自身も多くのことを学びました。とはいえ、まだまだ知識不足、経験不足に嘆く日々。ゆっくり焦らずしっかりと、成長していきたいと思っています。</p>
島野 竜成	<p style="text-align: center;">新人職員紹介参照</p>